

V 中高一貫教育校の施設整備の考え方

1 施設整備の基本的な考え方

(1) 整備手法

開成高校の校舎は、築年数が平成 22 年 4 月 1 日時点で 47 年と老朽化が進んでいることから全面改築で整備します。

(2) 施設整備の基本的な考え方

ア 札幌市における中高一貫教育校については、実験・観察等を重視することを想定していることから、これらに対応する特別教室を整備します。

イ 中学校段階の少人数指導や高校段階の単位制などに対応できる数の講義室を整備します。

ウ 生徒会活動等の特別活動においては、中高一貫教育校のメリットを活かすことを目的とした中高合同の活動や、中学校段階のリーダーシップの育成を目的とした中高別々の活動の双方を想定していることから、これに対応できる施設レイアウトを工夫します。

エ 生徒がゆとりある学校生活を送れる環境づくりを進めるとともに、幅広い異年齢集団が触れ合う、生徒の憩いの場となるコモンスペース^{注11}を確保します。

オ 中高の教員が一体となって教育活動に当たる必要があることから、職員室は一体のものとして整備します。また、整備に当たっては生徒が入室しやすく、相談しやすい配置を工夫します。

カ 中学校段階の生徒を対象とする給食の提供のための施設・設備を整備します。

2 開校までの施設整備のスケジュール（予定）

年 度	内 容
平成 23 年度	施設整備に係る基本計画の策定
平成 24 年度	基本設計・実施設計
平成 25 年度	新校舎建築工事着工
平成 26 年度	新校舎竣工（平成 27 年 4 月 開校予定）
平成 26～27 年度	既存校舎の解体、グラウンド造成

※ 上記スケジュールについては、基本設計等を行う中で変更の可能性があります。

^{注11} コモンスペース

生徒たちの共有スペースのことで、単位制の場合、専用のホームルーム教室を持たないことから、生徒の居場所づくりの観点から生徒たちが談話できるスペースを確保する必要があります。